



TITLE:

手術方法ノ研究

AUTHOR(S):

CITATION:

手術方法ノ研究. 日本外科宝函 1935, 12(2): 682-682

ISSUE DATE:

1935-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204257>

RIGHT:

手術方法ノ研究

骨縫合補遺

横山 正夫 (京都外科集談會12月例會所演)

10月ノ本會席上ニ於テ新シキ Prinzip = 依ル骨縫合ガ報告サレタガ其レニ就キ追加シタイト考ヘル。

右大腿骨骨折ニテ先日述べタ方針ニ依リ骨縫合ヲ行ツタガ其後ノ經過中34日目ノX線寫眞デハ何等ノ變化モナク Callus モ出來テ順調デアツタガ一度副子ヲ全部取去リ繃帶交換ヲ行ヒ44日目ノX線寫眞ヲ見ルト縫合ヲ行ツタ部ガ少シ Dislokation ヲ示シテキルノニ氣附イタ。是ハ術後ノ固定ノ不完全ナ爲ニ起ツタモノデアル。

他ニ大腿骨折ニテ同様ノ骨縫合ヲ行ヒ「ギプス」繃帶ノ交換中矢張り縫合部ニ Dislokation ヲ起シタガ Extension ヲ行ヒ好結果ヲ得タ例ガアル。

以上ノ如キ臨床上ノ經驗ヨリ考ヘルト骨折ノ治療方針トシテハ「骨折端ノ genaue Adaptation」ヲ骨縫合ニヨリテ行ヒ、患肢ヲ「ギプス」繃帶ニテ安靜ナラシムル「トム」仕方ハ不適當デアツテ骨折端ハ Konsolidation ガ完成スル迄ノ經過中ニ於テ「ギプス」繃帶ノ中デニ程度マデ bewegen シ knicken シ縫合ニヨル genaue Adaptation ヲ破壞スルモノデアル。其故ニ骨縫合ト Extension ヲ合併スル方針ヲトルト最も理想的カト考ヘル。

從來ノ「骨折療法」ヲ一々調べルト次ノ様デアル。

1) 金屬副子骨縫合

コレハ其自身デ Adaptation ト Immobilisation トガ同時ニ行ハレテキル筈デアルガ實際ハ即時ニ運動ヲ行ハシメズ矢張り「ギプス」固定ヲ合併スル場合多ク、其位ナラバ此ノ縫合法ハ意味ヲナサヌ。

2) 「ギプス」固定法

是デハ Immobilisation ダケデアツテ Fragmentenden ノ genaue Adaptation ガ行ハレヌ、唯今報告シタ2例ニ於ルガ如ク、ヨシ縫合ニ依ツテ一時的ノ genaue Adaptation ヲ行ヒ得タ後デサヘモ「ギプス」繃帶ヲ行ツテキル間ニ Fragmentenden ガ Dislokation ヲ來スモノデアル。況ンヤ「ギプス」固定法ダケヲ行ツテハ不完全ナルコト勿論デアル。

3) 伸展法(特ニ Nagel- oder Draht-Extension)

之ハ主トシテ Immobilisation デアツテ Fragmentenden ノ genaue Adaptation ハ骨折端ノアル部ヲ間接ニ(即チ厚キ軟部組織ト共ニ)種々ナル方向ニ牽引シテ目的ヲ達スルノデアルガ必ズシモ完全ニハ出來ヌ、若シモ Fragmentenden 間ニ軟部組織ノ介在セル時ハ伸展法ノミヲ以テ Fragmentenden ニ genaue Adaptation ヲ行フコトハ不可能ト考ヘネバナラス。

4) 3-Knopfnähte + Gipsverband.

之デハ Konsolidation ノ完成スル迄ノ間ニ骨縫合全部ガ knicken シ多少ノ Dislokation ヲ來ス。

其故ニ結局

5) 3-Knopfnähte + Extension (特ニ Nagel- oder Draht-Extension) ガ genaue Adaptation ト Immobilisation ノ目的ニ向ツテハ最も良イ方法ト考ヘラレル。